

戦争孤児の史実に光

全国ネット研究会発足

沖縄戦や原爆で家族を失った孤児の戦中・戦後史研究を進める全国ネットワー



「戦争孤児たちの戦後史研究会」が設立され、全国から集まった研究者や教員ら26日、東京都豊島区・立教大学

ク「戦争孤児たちの戦後史研究会」が26日、立ち上がった。体験の聞き取りや文献整理を進めながら、戦争政策と戦後対策の問題点を洗い出し、発信することが目的。同日、東京都豊島区の立教大学で設立の集いが開かれ、全国から研究者ら約20人が集まった。

呼び掛け人の立教大の浅井春夫教授によると、戦争孤児の実態は全国的に検証が進んでおらず、特に沖縄戦孤児を巡る内実は謎だという。戦後71年がたち当事

沖繩国際大名誉教授や名護市教育委員会市史編さん係の川満彰さんらが関わる。設立の集いでは、沖縄や広島で孤児を調査している大阪府の中学校教員、平井美津子さんが講演。「今の政治状況に、また戦争が起

こる気がする」と多くの孤児が語っている。記録し、伝えることが大切。二度と戦争を起こさないという理念を引き継ぐことが、本当の意味での戦争体験の継承になる」と語った。

(社会部・嘉数よしの)